



オンライン報告会を実施しました

10月～1月にかけて、毎月1回、各事業のテーマに沿って、オンライン報告会を実施しました。今年度は、新型コロナウイルスの影響で、対面のイベントやボランティア活動がなかなか実施できない日々が続いていますが、普段は直接事業をお伝えする機会が少ない日本や世界各地に住む皆様や、初めて日本ハビタット協会を知る人にも多数ご参加いただきました。今後も、現地からの報告や動画を交えながら、報告会を実施していく予定です。

ハビタットクイズ?!

世界中のコインやお札を見比べてみると、国ごとの特徴や歴史が描かれているよ！
実は各国の通貨単位にも色々な由来があるんだ。通貨単位と由来を線で結んでみよう。

① グアテマラ：ケツアル

動物の名前

② ベネズエラ：ボリバル

鳥の名前

③ ガーナ：セディ

先住民族の名前

④ クロアチア：クーナ

貝の名前

⑤ パラグアイ：グアラニー

人の名前



ご協力いただきありがとうございます

2020年6月1日 ～ 2020年10月31日
(敬称略・順不同)

みなさまのご支援ご協力により、多くの国と地域において、まちづくり事業を実施することができています。心から感謝申し上げます。

会費 (財)アジア女性交流・研究フォーラム、日亜化学工業(株)、SI-柳川、安藤久美子、伊木常昭、一柳とく江、浦澄子、遠見幸蔵、塩川秀敏、下津浦康裕、笠留美子、北村誠吾、鬼頭猛、宮田秀子、宮本知枝、久山純弘、錦織保、原雄次郎、原田義信、五十嵐滋、坂本春生、山口実知子、山際則子、山村より子、秋本敏文、新井てつお、瀬戸美都子、清水雄二、赤枝恒雄、川上五郎、村野啓子、大橋俊枝、大崎博之、大庭さみ子、丹羽浩康、中島貴仁、中村勇、長谷川隆徳、塚越勝美、堤かなめ、滝澤進、田村哲夫、藤本貴也、白澤和子、富取善彦、橋本久美子、伴襄、福迫隆、平井功、末次恵二、木下ハツ子、野崎美知子、矢野俊一、六波羅昭

ご寄附 SI-吉枝・八代・熊本さくら、伊木常昭、伊藤志朗、遠見幸蔵、奥野照義、岡田耕造、加山雄三、加藤弘子、笠留美子、鬼頭猛、宮田秀子、久山純弘、久保政彦、錦織保、原雄次郎、原田安則、原田義信、高井敬子、酒井純子、坂尚美、三浦教子、山口実知子、山際則子、勝又宏幸、松本賢次、松本正子、上山佳彦、新井てつお、森多賀子、神戸、清水雄二、川上五郎、大隅道子、丹羽浩康、丹波佐和子、中井禮子、中村勇、堤優子、橋本久美子、藤岡美千代、難波崇文、柏谷健、樋口謙一郎、平井巧、品田知子、富取善彦、富澤綾、六波羅昭、三菱商事(株)、東京国際空港ターミナル(株)、熊本空港ビルディング(株)、成田国際空港(株)、北海道エアポート(株)新千歳航空事務所、博多港国際ターミナル

切手・書き損じハガキ等 (株)JCB、山田、松本賢次、高井敬子、柏谷健、母袋秀典、大隅道子

ご協力いただいた方及び団体 国連ハビタット福岡本部、国連ハビタット福岡本部協力委員会、福岡県、東京福岡県人会、千代田区社会福祉協議会、ちよだボランティアセンター、国際協力機構(JICA)、地球環境基金、福岡県男女共同参画センター「あすばる」、ソフトバンクモバイル、シャンドゥミュリエ、(株)電通、半蔵門駅前郵便局、(社)日本フィランソロピー協会、(一財)シルクセンター国際貿易観光会館、ハビタット福岡市民の会、こどもの夢ネットワーク、アジアの女性と子どもネットワーク、ボランティア・ハビタットフレンズの皆様

募金箱設置にご協力いただいた企業等 成田国際空港(株)、東京国際ターミナル(株)、中部国際空港(株)、関西国際空港(株)、北海道エアポート(株)新千歳空港事務所、福岡空港ビルディング(株)、博多港開発・西部ガス共同事業体、長崎空港ビルディング(株)、那覇空港ビルディング(株)、逗子文化プラザ市民交流センター、(有)岩田時計店、(株)新橋スタンプ商会、住友商事(株)、珈琲店ストーンズ、AOKI、シトリックス・システムズ・ジャパン

発行：認定NPO法人 日本ハビタット協会 (発行責任 篠原大作 / 編集責任 山本 博子)

〒102-0092 東京都千代田区隼町 2-12 藤和半蔵門コープ 103 号 TEL / FAX : 03-3512-0355
E-mail : info@habitat.or.jp / URL : https://www.habitat.or.jp

2021年1月発行



JAPAN HABITAT
ASSOCIATION

HABITAT 日本ハビタット協会

まちづくり通信 No. 38

日本ハビタット協会は、国連ハビタットと共に世界中の人々が安全で安心して暮らせるまちづくりを推進しています

東日本大震災復興支援の10年のあゆみ



2011年 3月13日 仙台市若林区の避難所に緊急支援物資を届ける。その後、ハビタットフレンズシップ便が飲料水や生活用品だけでなく、乳幼児や女性向けの物資を届ける。(計7回)



7月 石巻市立雄勝小学校にて、サッカー教室を開催。

11月～ 地域の人々の心の拠り所となる伝統芸能復興支援として、津波で被害を受けた女川の獅子舞へ獅子頭の寄贈やイベント出演などの支援を開始。

12月～ あったかサポートとして、避難所に防寒用具等を届ける。毎年ハビタットサンタが被災地の小学校や保育園にクリスマスプレゼントを届ける。

2012年 2月～ 震災の記憶を風化させないよう、被災された方々の声を音楽と朗読で伝える舞台「あの日のこと」を定期的に開催。

2013年 5月～ 桑産業による農業と地域の活性化を目指す「復興の桑プロジェクト」を開始。

2014年 5月～ 復興の桑応援ボランティアツアーを開催し、桑の苗木 7,000 本を植樹。

6月 雄勝小学校の教育設備支援を実施。

12月～ 桑の葉パウダー入り生チョコレート「KUWA CHOCO」による子どもの自立支援事業を開始。

2015年 3月 第3回国連防災会議に参加し、仙台防災未来フォーラムにおいてシンポジウム「地域ネットワークを活かした災害支援と復興」を開催。

2017年 11月～ 桑の葉パウダー入りキャラチョコレートを商品化し、子どもの自立支援事業による子どもを育む地域社会づくりを推進。

人と人のつながりの大切さ

マリ・クリスティーヌ

2011年3月11日、私は仕事で福岡にいました。講演開始寸前に次々と鳴る携帯電話で東日本大震災の発災を知りました。終了後に見た津波のニュースは想像を絶する状況で今も忘れることができません。

翌々日13日の朝、ハビタットフレンズ仙台の一人から「避難所には食べ物も飲み物も暖房も足りない。雪で濡れた衣服の着替えもない人が大勢いる。助けて欲しい。」と電話を受けました。東京からの輸送道路が途切れていたため、すぐに山形の友人に連絡し物資の準備を頼み、運送会社トラックの手配をお願いしました。一方仙台では受け入れ態勢を整えるために、避難所の責任者や区役所との交渉に終日走り回ったそうです。皆様の多大な努力により、真っ暗な中崩れた道路を避けながら、奇跡のようにその日の夕刻トラック満載の支援品が仙台市若林区の避難所に届きました。避難所の皆様は大喜びでした。これまでに培ったネットワークが最大限に活かされた支援事業でした。

震災からひと月後、被災地に赴いた時「自分も被災したけれど、日頃からのボランティア活動のおかげで体が自然に動きました。そうでなければあの凄まじい災害に茫然として泣き暮らしていたに違いない。このような時に人のために動けたことが嬉しく、私たち自身の復興の力の源になりました。」とハビタットフレンズ仙台の方々は揃って同じ言葉を口にされました。

この経験から、2015年に仙台で開催された第3回国連防災会議で私たちは「人のつながりこそが防災と復興の原点である」というシンポジウムを開催しました。日頃から周りの人とのつながりを大切にする事の重要性をこれからも伝え続けていきたいと思っています。

写真：2011年4月、仙台市若林区の岡田小学校にできたお風呂の前で



ケニア スマイルトイレプロジェクト

新型コロナウイルス感染症

世界各地で新型コロナウイルスの感染が拡大していますが、スマイルトイレプロジェクトを実施しているケニアにおいても感染者数が増え続けている状況で、医療システムが脆弱な地域における感染予防はとても重要な課題となっています。

清潔なトイレと手洗い場の設置は、新型コロナウイルス感染症予防に効果的であることから、ホームベイ県保健省と連携して、マスクの配布やソーシャルディスタンス確保など、国の推奨する感染予防を講じながらプロジェクトを推進しています。

トイレの台座も協力して作っています。

世界手洗いの日

新型コロナウイルス感染予防として手洗いが有効とされていますが、水へのアクセスが難しい地域では、手洗い場の普及率が非常に低いため、誰でも設置できる簡易の手洗い場の設置を行っています。

10月15日の「世界手洗いの日」に合わせて、啓発キャンペーンを行いました。手洗い場設置のデモンストレーションを行いながら、手洗いが新型コロナウイルスをはじめコレラや腸チフスなどの感染症予防につながることへの理解を深めました。

また、現地での手洗いの動画が、JICA 東京が作成した手洗いの啓発動画に採用されました。しっかりと手洗いを行うことができるよう「ハッピーバースデー」の歌に合わせながらみんなで手洗いをしています。

私たちの歌を聞いてくださいね!



動画はこちらから

現地からの感謝のメッセージ

2019年度の事業対象となった10村では、トイレの普及率が60%から97%になり、15か所あった野外排泄場所での野外排泄も行われなくなりました。21%しかなかった手洗い場についても、86%の世帯に普及し、2020年9月現在、1,144世帯が手洗いを行えるようになりました。

チャールズ・ジュマテッド

トレーニングのおかげで、バナナや野菜栽培の技術が向上し、収穫量も上がりました。それによりこれまで簡易で不衛生なトイレを使っていましたが、SATO Panを導入した衛生的なトイレを建設することができ、安心して使っています。ありがとうございました。



シブリナ・オニャンゴ

このプロジェクトのおかげで、私たちの暮らしは良くなりました。本当にありがとうございました。農業トレーニングを受けたことで、バナナ栽培や養鶏を行うことができるようになり、一部は自分たちで消費して、他は市場で売ることによって、収入を得られるようになりました。それによりトイレを建設でき、衛生環境が改善しました。



ジェーン・オティエノ

事業の前は、野外排泄物の嫌な臭いがしていましたが、今はありません。私も農業指導を受けて、バナナ栽培や養鶏を行っています。鶏は成長して、卵を産むようになりました。この収入で、トイレの床を改善するなど、より衛生的なトイレを建設しています。ありがとうございました。



ラオス ラオス環境教育プロジェクト

新型コロナウイルス感染症の影響

ラオスでは、早くから国境を封鎖し、国内に新型コロナウイルスを入れない政策をとってきたこともあり、国内での感染者数は、今のところ抑えられている状況です。一方で、その影響で、近隣諸国との物流や人の行き来が制限されたことによる経済的な影響が心配されています。現金収入が激減したり絶たれたりすることで、子どもたちや学生たちが学業を継続できなくなることもつながりかねません。

日本ハビタット協会では、農業大学の先生たちと連携をとりながら、プロジェクトに参加する学生たちが、環境リーダーとしての学びを諦めることのないようサポートを行っています。



Somphong 先生からのメッセージ

新型コロナウイルスの影響で大変な中、継続してご支援いただきありがとうございます。2018年から始まった環境教育プロジェクトも3年目となりました。プロジェクトに参加した大学の環境保全チームの学生は60名を超え、卒業したメンバーたちもいます。毎年、新たな1年生がチームに入ってきますが、プロジェクトを通して身につけたことを、先輩が後輩にきちんと伝えていくため、チームの地域の環境リーダーとしての力がついていることを強く感じています。こうして、リーダーとして力をつけた学生たちが、将来的には、卒業して自分たちの村でも取り組みを広げていってくれることを願っています。

教育プログラムを受けている中学校でも、この3年で環境への意識が変化してきたのを感じます。新型コロナウイルスの影響で、3月～9月は、中学校での十分な活動ができませんでした。先日久しぶりにワークショップで訪れた中学校で、2019年5月に植林し、子どもたちの膝丈だった果樹の苗木が、私の身長を超えるほどに育っていてとても嬉しかったです。先生たちに話を聞くと、ワークショップが実施できなかった間も、環境の大切さを学んだ子どもたちは学校の草木の手入れをし、ゴミを校内にポイ捨てせずに、しっかりと清掃活動を行っていたそうです。一つ一つは小さな積み重ねですが、こうしたことが地域の環境の改善につながっていくと信じ、これからも活動を続けていきたいと思っています。



ご支援いただきありがとうございます!



プロジェクトに参加する中学生からのメッセージ

パクウー中学校6年生 スパポーンさん

環境問題について学んでから、みんなで学校をどんどん良くしていっていると感じています。これまでも、木を植えたり、環境が大切というメッセージに触れる機会にはありましたが、プロジェクトで継続的に学び、環境活動に取り組むようになり、学校に緑が増えました。特に、学校のゴミを集めて分別したワークショップが印象に残っています。あっちこっちに散らばってるゴミを集めると、100kgを超える量になったのは驚きました。学校では、ゴミ拾いや分別をするようになりました。学校以外にも、活動を広げていきたいと思っています。

私たちの美しい村を残すために

